

臨床研究「重症下肢虚血における大切断を回避するための因子の検討」について

筑波大学附属病院形成外科では、標題の臨床研究を実施しております。

本研究の概要は以下のとおりです。

① 研究の意義・目的

重症下肢虚血とは、閉塞性動脈硬化症が進行して足の潰瘍や壊疽を生じた状態で、糖尿病や慢性腎不全、虚血性心疾患など基礎疾患を合併している例が多く、治療に難渋します。特に足のゆびをこえた病変の場合は大切断（足の長さが変わる切断：膝下切断や膝上切断）に至るものも多いです。

足の創傷のゴールはキズの治癒のみならず歩行能力の回復といえます。なるべく踵を温存した治療を行いたいと思う一方で、膝下切断であっても適切なリハビリテーションを行えば歩行能力は維持できるため、踵温存にこだわって治療期間が長くなるよりも早期に膝下切断を行って社会復帰を目指すほうがいい場合もあります。重症下肢虚血症例における足のゆびをこえた病変に対しての切断レベルの決定は医療者側にとっても患者さんにとっても難しいものです。

今回この研究によってどういった場合は踵を残すのが難しいか、を明らかにすることで、患者さんの歩行能力の回復を達成していきたいと考えています。

② 研究対象者

2013年4月から2019年2月まで当院で足のゆびをこえる切断手術を受けた患者さん

③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2019年6月30日まで

④ 研究の方法

患者さんの最終的な切断レベルや歩行能力の回復と、年齢、性別、基礎疾患（糖尿病の有無、人工透析の有無、心臓病の有無）、採血データ、血流の評価のデータ、血行再建の方法などをくらべてどういった症例が踵を残すのが難しいか、関連性を調べます。

⑤ 試料・情報の項目

診療記録、血液データ、検査データ

⑥ 試料・情報の管理について責任を有する者

筑波大学医学医療系 形成外科 関堂充

⑦ 本研究への参加を希望されない場合

患者さんやご家族（ご遺族）が本研究への参加を希望されず、試料・情報の利用又は提供の停止を希望される場合は、下記の問い合わせ先へご連絡ください。すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。

⑧ 問い合わせ連絡先

筑波大学附属病院：担当：相原有希子

住所：〒305-8576 茨城県つくば市天久保2丁目1番地1

電話番号：029-853-3933（形成外科外来、平日8:30～17:15）

029-853-3525（休日・夜間救急受付）